

## 令和7年度世田谷区立深沢中学校学校関係者評価委員会報告

### 1 アンケート結果の分析

以下、生徒向けのアンケート項目に沿って分析を行なう。保護者向け、地域向けの項目で該当するものがある場合は、その結果の分析も同時に記載していく。保護者向け、地域向けの独自項目については最後に記載する。

#### (1) 学習について

[生徒]

- ・生徒のアンケート結果（全体）によると、約28%の生徒が「学ぶことが楽しい」「授業では個別な学びを取り入れている」に否定的な回答を行なっている。学年別での大きな差異は見られなかった。
- ・「協働的な学び」や「先生の分かりやすい授業の工夫」について、高い肯定率を示している。
- ・「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している」について、3年生は20%近くが否定的な回答を行なっている。

[保護者]

- ・「学校からの学習状況に関する情報提供」に全体では25%超が否定的で、2年生の保護者では1/3と突出している。

#### (2) 学校生活について

[生徒]

- ・ほぼ全ての項目で高い肯定的回答となっているが、「先生への相談のしやすさ」が全体では20%が否定的回答となっている。特に1年生は30%を超えているが、教員とまだ馴染んでいないことが要因と考えられ、上級学年では改善されている。

[保護者]

- ・こちらもほぼ高い肯定的回答となっているが、生徒の回答に比べて、部活動や課外活動へのポイントが若干低くなっている。
- ・この部活動や課外活動への否定的回答が、2年生の保護者は他学年の倍近くになっている。また、「ルールに関する指導」についても否定的意見が多い。

### (3) キャリア教育について

#### [生徒]

- ・例年のことではあるが、学年差が如実に現れており、学年が上がるにつれて、肯定的意見が増えている。特に「A.とても思う」の回答率が、1年生 20%以下 ⇒2年生 40% ⇒3年生 45%超とキャリア教育についての認識が深まっている。

#### [保護者]

- ・こちらも同様の傾向であるが、肯定的意見は2年生が一番高く、3年生で下がっている。2年生は職業体験ならびにアントレプレナーシップ教育を実施したことでイメージしやすかったことと、3年生の保護者が求めているキャリア教育は受験指導に傾いている可能性がある。

### (4) 家庭学習・生活・地域について

#### [生徒]

- ・「家庭や塾などでの学習への取り組み」は80%以上が肯定的であり、学年が上がるにつれて増え、3年生は90%超となっている。
- ・「体力の向上や健康な生活への取り組み」は肯定的回答が80%を切っており、特に3年生は70%以下で、部活動の終了や受験勉強の影響と思われる。
- ・「地域での行事や活動への興味」は肯定的回答が全体では50%以下で、3年生のみかろうじて50%超である。

#### [保護者]

- ・「家庭や塾などでの学習への取り組み」は肯定的回答が約70%と生徒と10ポイントの差が生じている。
- ・「体力の向上や健康な生活への取り組み」については逆に肯定的回答が80%を超えており、特に3年生については生徒が69%であるのに対し、保護者は75%が肯定的回答を行なっている。
- ・「地域での行事や活動への興味」は生徒より高い60%以上の肯定的回答となっており、3年生が1番高い。地域活動への認知度が高まっている影響と思われる。

#### [地域]

- ・肯定的意見が60%を占めているが、分からないも多い。

(5) 取り組み目標について

[生徒]

- ・概ね肯定的意見が80%を超えているが、自己肯定感については全体では80%を下回っていたが、学年が上がるにつれて自己肯定感も上がり、3年生では「Aとても思う」が47.4%と半数近くを占めるなど、良い傾向が見られる。

[保護者]

- ・「気持ちの良い挨拶と言葉づかい」「時間を意識した行動」について、いずれも生徒より否定的回答が多くなっている。特に言葉づかいについては、3年生で増加している。
- ・一方、「思いやりのある行動」については3年生になると上昇している。反抗期や思春期を迎えぶっきらぼうになる反面、大人としての自覚が出てきている現れとも考えられる。

(6) 学校運営・全般について（保護者、地域の方々対象）

- ・「保護者への情報提供」について、ここでは高い肯定的回答を得ている。一方で上述したように「学習面での情報提供」は低くなっており、この差異がどこから出ているのかの検証が必要かもしれない。
- ・「相談のしやすさ」については、1年生、3年生は肯定的回答が70%台に留まっているが、上述の学習生活や学校生活では否定的回答が多かったにも関わらず、2年生は80%を超える肯定的回答となっている。この逆転現象についても何らかの確認を行ないたい。
- ・学校の安全教育、安全対策については、保護者、地域の方ともに、肯定的回答が多くを占めている。

(7) 学校からの情報提供について（地域の方々対象）

- ・紙媒体での直接の情報提供には100%の肯定的回答となっているが、ホームページなどのWEB媒体となると、残念ながら80%を割り込んでいる。また、学校公開等、足を運んでの情報についても80%を割り込んでいる。

2 学校自己評価アンケートについて

「教科日本語」に関する項目以外は、ほぼ肯定的回答が80%以上を占めている。その他、幾つかの項目について肯定的回答が下がっているものもあるが、生徒や保護者アンケートと関連しているものもあり、教職員による分析も必要かと思われる。

### 3 総括

生徒、保護者、ならびに地域の方々から見ても、学校生活全般に対する満足度が高いことは何よりである。生徒にとって居心地のいい場所であることこそ、学校の最大の存在価値であり、魅力であると言えよう。

とはいえ、アンケート結果から散見される否定的回答については、どんなに少なくとも原因の分析を怠らず、さらなる充実に務める必要がある。わずかな亀裂であっても、それが大きな崩壊に繋がらないという保証はない。

そのことを肝に銘じながら、今後とも一層の充実した学校運営に励んでいただきたい。

令和8年3月2日

令和7年度世田谷区立深沢中学校学校関係者評価委員会

委員長 井坂 聡

委員 青柳 義博

谷岡 美貴

外館 孝則

西川 雅子